

KK通信

昭和28年9月1日発行 (毎月1日1回発行)
昭和28年4月17日第3種郵便物認可
発行所 堺局区菅原通4ノ30曙書房
定価 一部 20円

第二二二号

営業部便り

●本誌並にKK通信の前金切にて継続御申込の節は必ず何月号より、或は第何号よりと御記入下さる様願います。
●未着御照会の際は、送金日、送金方法、注文品目等出来るだけ詳細御記入願えれば至急調査いたします。

代理部だより

●縛られた女の写真集、長らく御待たせ致しました第九篇(第八十一集から第九十集まで)今回完成致しましたので九月号の緊縛美のオンパレードを御参考の上、せいせい御申込下さるようお願いいたします。

●アルバム、縛られた女ばかりの十六態——美しき縛しめ——は大好評で毎日賞讃の御手紙を沢山頂いて居ります。吾妻新氏からはこんな素晴らしい写真帖は初めて見た、外国にもまだ嘗てないものだろうの御言葉を頂きました。皆さまの御批評を参考に引続いて斬新なアイデアで変ったアルバムを企画中です。

●「美しき縛しめ」またお求めになられなかつた方々は増刷分がありますからこの際は是非お申込み下さい。
●今後写真集の御申込みには是非番号を記入下されば好都合です。

特別会員便り

○特別会員中の有志によつて辻村隆氏の司会で「女を縛つた経験語る座談会」を開催いたしますから、御希望の方は同氏宛御申込み願います。

○特別会員に入会御希望の方は郵券二十円封入されれば、会則並に申込用紙を御送付申し上げます。

○特別会員用の連絡機関紙としてのKK通信は漸次充実を加えてこゝに十二号を迎えました。皆さまの比較的多数の要望を入れて現在この様な形態になつて居りますが、必ずしもこのまゝにて満足しているわけではありませんので四圍の状況とにらみ合して、更に充実発展をはかるつもりであります。

○種々の支障のため十二分の活躍を阻害されている実情ですが、何れ快報をお伝え出来ると思ひます。

(編集部便り)

○毎日編集部の机上に山積される夥しい読者からの通信、並に特別会員申込書等によつて本誌の向うべき方向は確定、本誌がA判になつて以来一カ年有余にして、こゝに異色月刊誌としての揺がざる基礎が出来上りました。

○写真帖、画帖、単行本の刊行等の各種の企画の外、今秋は臨時増刊号も計画して居りますから、ドシドシ御遠慮なく名案をお寄せ下さい。

○本誌のB判時代には本名の須磨利之或は今幾久蔵等のペンネームで挿繪を發表し、A判になつてからは主として喜多玲子の筆名を用いて居りました喜多氏は都合により本誌を退陣いたしました。後を受けて多士済々の新鋭實画家群の強力なる応援を得まして、目下奇抜なる企画に着手中でありま

ら、必ずや皆さまの絶賛を招くことと信じます。

○九月号では口繪四頁を増頁の上、多数読者の要望を入れた緊縛美のオンパレードの挿入を企てました。十月号では更に増頁の予定ですので、企画についての御希望があればお寄せ下さい。出来るだけ皆さまの御意向にそいたいと思ひます。

○隠れたる責繪研究家、土中剛水氏から送られた迫力のある責繪数枚の中、一部を本号に掲載しました。引続いて「責めのいろは歌留多」を描いて居られるそうです。

○特に奇譚クラブの編集方針に強い共感を持つて編集部入りされた家原文子嬢が、読者の皆さまとの文通を希望されていますので御遠慮なくお寄せ下さい。近い中何か發表するそうです。

KK通信 第11号

昭和二十八年九月一日発行 (毎月一回一日発行)
発行人 吉田 稔 編集人 箕田 京二
発行所 大阪府堺局区内菅原通四ノ三〇 曙書房
定価 二十円 (振替口座大阪三四九五六番)

奇クに熱狂的な購読者の多いのは、この種のものゝ供給の稀少性に依るためであり、又同じ奇クの内容の中でも糞尿好みとか、男性マゾ等に至つては一層稀少であり、一種の特効高貴藥的な有難さのためでありましょう。

私はこの社会的に稀少なものに対して勇敢に手をつけられ、尚も堅実に発展せしめつゝある関係者に対して深く敬意を表します

奇クの内容中、女体の責めに關しては、程度の差こそあれ大抵人間性に通有するものであり、その情緒は独特の美を形成しますが、糞尿とか男のマゾに至つては、大いに問題があると思ひますが、蕪村の句に「かきつばたべたりと慮のたれてける」

このように汚ないものを扱つて居り乍ら、美を失つて居りません、又ボー・ドレールの詩などもその材料の悪魔的なるにもかゝらず文学としての高い地位を保つて居ります。これらの例の如くに内容の如何を問

KK論壇

稀少性の価値

森田 勝

すべきであつて、種々の責め方はそれに伴つて起る処の心情の動きを表すことによつて、初めて生彩を放つてきます。

十月号の「縛られた妻」は文章の構成も立派であつたが、責められる女の微妙な心理が十分描かれていて、残虐に過ぎず、輕卒にはしらず、而も悩ましく美しい文章でした。私は残虐を必らずしも、排斥するものではありません

んが、無闇に血を流させたり、不具にしたり又は無理に汚物を喰わせたりすることは多くの場合、甚だしく美觀を損なうもので、成るべく避けるべきであると思ひます。

私は、数年前今の歌右エ門(当時芝寛)の浦里の雪責めを御園座で(名古屋)見ました。後手に胸へも一条廻して縛られた浦里が、庭の木に繋がれて雪の降る中で、縄の長さ七、八尺の間で立つたり、座つたり小走りに動いたり、木に倚りかゝつたりして悶々苦しむ有様は、哀憐の限りを盡し、小一

時間の長い一幕中満場の観客は寂としてしわぶき一つ聞えませんでした。

私は、奇クの終局の目標は案外多くの人々が求めて居り乍ら、社会的に稀少な、特異な題材を成るべく審美的にとり上げて、出版文化史上の一分野を開拓し多数の同好者に永続的に満足を与えることにあると思ひます。

一、水平に体を吊す時は胴と手と足とに出来るだけ重量を平均させ、股間を吊すのは本来から言えば全く必要のないことです。それを行うのはZゲルプの一部の者の趣味なのです。唯どの様にうまく胴で中心をとつても多少反り身になりますから、刺戟を加える効果があります。

二、この場合の輪は、二本の紐を平行にさせ、二方所で結び目をつくるのでその中央が輪になるため、それ以外は二本となるのです。その輪のつくる位置をどこにつくるかで、前と後の紐の長さがちがってきますから、結び目の位置も変化します。たゞし私は俯伏せにさせるのを好みますから結び目は大抵股間にもつてゆきます。(前では当つて痛いだけです)

三、股間の結び目を中心に、後を強く締め前をゆるめて、ずれる心配はないかとのおたずねですが、この場合も俯

前号の呑島氏へのお答え

伏せを想定しています。足を多少はなして縛つても、もがいて結び目が後方に移動することはめつたにありません。立つて居る姿勢でも、少し大きな結び目でしたらよほど両足をひろげぬ限り移動しません。実験なさるとわかるでしょう。

四、股間を縛るとき、ズボンの長短やズボンス等の利用は各人の趣味です。ただ私は視覚を重視するので長いズボンを好みます。あまりに薄い生地は觸感が直接すぎて避けています。ネルのバジヤマのズボンが最適のようです。五、鞭打は、ほどよい痛感と最上の羞恥の組み合わせをベストとしますから、前の方が少くてバランスがとれると思うのです。たゞそれを五十と十五という数字で現わす標準がないから、犠牲者は違ひようがないというわけです。

(吾妻新)

読者の支持を期待す

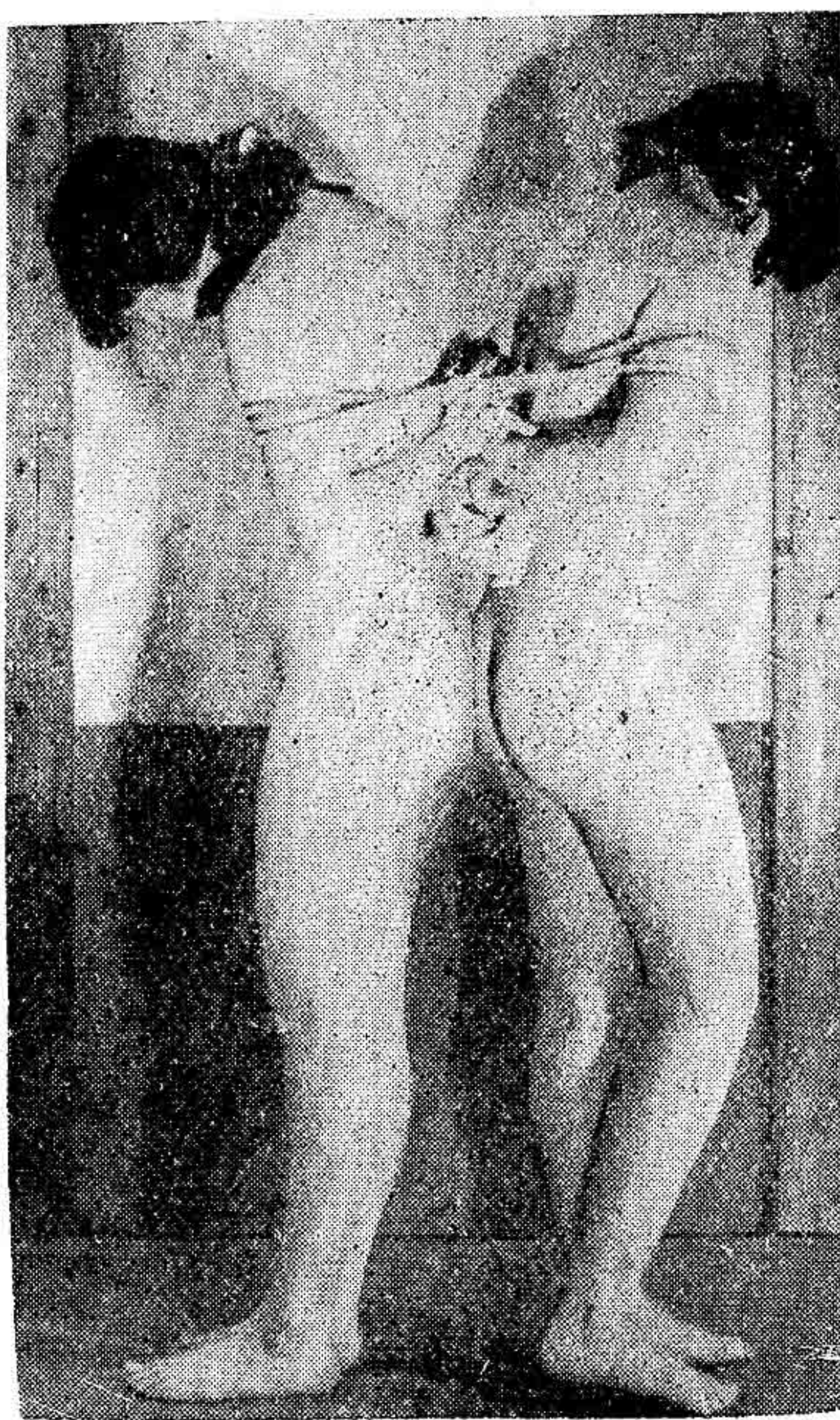
○本誌が限られた特殊な読者を基盤として世人の指弾に抗しながらも発刊を続けてゆくのは一に読者諸氏の熱烈にして熾まぬ御支援の賜です。

○其の意味で皆さまから寄せられる御支援の言葉、御批評御鞭撻の言葉は担当者一同の唯一無二の激励の糧となるのは疑いもない事実です。

○本誌が慎重なる企画によつて読者諸氏の熱狂的な要望を最大限度に取り入れて、俗に走らす奇をてらわす、独自のスタイルを打ち樹てましたが、更に皆さまの御鞭撻を期待してやみません

原稿募集

読者の告白、体験談、性離等を募る読者の皆様の雑誌である奇クをより強く皆様に密着させるため、努めて読者諸氏の作品を掲載したいと思ひますので御遠慮なくドシドシとお寄せ下さい。文章の巧拙等は問いません。誌上匿名は御自由です。本名其の他の秘密は厳守致します。枚数や用紙も問いません。掲載の分には薄謝を呈します



ボクの責め方(八)

宝塚二三夫



そして素裸の君子を高手小手に縛り直して、テーブルの上に仰向けに寝かし両脚を拡げて机の脚に一方づつ縛り付けた時、ハッ!とボクの食指を止めたもの……

ボクは静かに立ち上つて、いたわる如く両足首の縄目を片方づつ解いて胸にかゝつた縄目を掴んで引き上げると素早く縄目を解いて「さ、トイレへ行つて来な」と云つてやる、子供と云つても年頃の君子は瞬間ケンな表情と共に

やはり感付いたか、泣顔をして小走りに出て行つた。

これで何年かの中、新谷正子と二人目の事である、やはり一種の興奮めである。そしてその日のあらゆるプランも急変更したのも止むを得ぬ事であつた。ボクはその夜多津子の旅館で秘書の松本を呼んでみたが、一向に楽しい責めも出来ずに終つた。

五月十六日は、先刻発表したニューフェースたか子蘭花の日である。これ

は君子よりも更に新しいボクのペットであり、近頃美人の中の第一級である肌色は純白でないが小麦白色肉中背素晴らしい黒い目勝の明眸、そしてボクは堪らぬような脚線と肉付の脛、ボクが即決でこの廿一才の美人を入社させて早くも二ヶ月、特異性格のこの娘をこゝまで仕上げるには珍らしく苦勞したものである。

入社した三月末、今年は未だ薄ら寒い春だつたのでボク特有の好みによる

コスチューム責め即ちボク独特の責への誘導である遅刻罰、(殆んど皆この手で第一歩を踏出す) オーバーを着たまゝ既足にして立たす……これである遅れた時間だけ……この手で不成功は一度もない、何故ならエロがかつた責手でないからだろう——が然し脚のフェミニストであるボクには十分楽しめる責であり、新しい今後の観察観に必要なのである。その時このたか子の態度表情に——他の娘とちがった只ならぬものを感じたのである。このたか子「ハイ」等とわざとらしい返事はせぬそして又「堪忍して下さい」等とあやまりもせぬ、黒い瞳をキラ／＼輝やかし乍らウンとうなづいて靴をぬぎ出すのである。そして振り返るとアツサリ靴下もぬぐと丸めて靴の中に入れて既足になつて部屋隅へ此方に向いて立つたのである。仮入社してそれが四日目である。そして俯向きかげんの顔から眸だけ上目でボクの方をジロリと物静かに一種の哀れつばさ茶目氣で見つめた時、ボクは完全に参つてしまつたのである。

最後の良心と勇気とを奮つて救わんと
しても、閉じ込められた身に如何とも
し難いのであつた。
娘はすべてが徒勞だと知れると、そ
の真赤な唇は僅かに白い歯をのぞかせ
てふるふるぞと痙攣し、碧いつぶらなそ
の瞳からは、大粒の涙がハラハラと落
した。
(未完)

九月号の内容紹介

(九月号七月下旬発売)

KK通信の前身に炎責めの画を載せ
て好評だった南川和子さんの画が口繪
として誌上を飾っている外、私は何故
責め繪を描くか、という短文と繪が寄
せられた。特に川端多奈子嬢を煩して
四人のモデル嬢を集めて、縛られた女
ばかりの座談会、の速記録を得た編集
部よりは家原文子嬢が派遣された。娘
さんの偽らざる放言として中々得難い
ものだと思ふ。本号は「秘められた手
記」特集というわけで、四篇の読者の
告白手記を集めた。編集部机の上から
抜いた四篇であるが、後にまだまだ変

つた予想もつかない珍奇な手記が山積
しているの秋には、臨時増刊にでも
するつもりである。題名は「燃ゆる緋
罌粟」(川合伊都子)、「孤児院での経
験」(野々村由紀夫)、「白粉地獄」(中
川秀夫)、「愛と憎しみ」(壇不二子)
古川裕子さんからは「悦虐の記録」
として亡夫との加虐被虐の痺れるよう
な思い出を語った「囚衣」「続囚衣」
の二篇を、長期刊を寄せられた。一
読者サドの人はサジズムの血を湧か
し、マゾの人はマゾヒズムの血を燃や
す魔酒のような文章である。長らく発
表を留保されていた「幸福なる隷属の
告白」は赤裸々な飾り気のない文章に
よつてこの傾向の体験者にとつて共感
を得る所が多いと思ふ。魔都上海の思
出の四、は読者の要望で邦人女性の受
難事件を扱った。淫火は第九回に至つ
て、小百合夫人が本格的に責めにあつ
事になった。勿論貴船一郎ではなくて
女性の手によつてではあるが、連載
物は此の外に「らぶ・すれいぶ」「あ
るマゾヒストの手帖から」翻訳物「甘
美なるアリスの降伏」が益々好調の外

「我が告白の断章」は本号を以て終る
あらゆるアブの世界の遍歴を身をもつ
て体験した筆者が誇張のない淡々たる
筆致で書き綴つた四回に亘る告白は必
ず文獻としての価値を有するものと信
ず、責めの自画像は長篇自伝小説の
書き出しの部分で、この後の部分は肉
身相姦という常人では一寸想像のつか
ない事件に至るのだが、冒頭を發
表して読者の批判を仰ぐことにした。
御馴染の羽村京子さんからは「京子の
生活と意見から」と題した三千数枚の
手記を頂いた。昨年の「狂い咲くカ
ンナ」以来、同女史獨特の一連の告白
集にピリオドを打つものとして熟読願
いたい一文である。岡真史郎氏の男色
夜話―両棲動物―は誌面の都合で
一回に分けたが、ホモ関係の人達のオ
アシスとなるものと信ずる。八月号に
「女性の切腹例」を發表された田谷敬
生氏から「女性切腹の繪」数枚頂いた
ので、その中の三葉を發表した。これは
同氏の言にもある通り、繪そのもの、
巧拙よりも實際を目撃した人の記録画
として価値のあるものと思ふ。

躍進十月号の陣容

九月号で口繪四頁を増頁したが、十
月号では更に四頁の増頁を企て、南川
和子女史の「針を刺される女」の各姿
態を柔軟きわまりない一筆描きのタツ
子で試られる外、サド・ロマンチスト
のシナリオライターとして有名な河村
哲夫氏の快心作「体操倉庫」のテーマ
と取り組んで、瀧澤女子が得意の麗
筆をふるわれる。尚口繪としては此の
外、津森澄子さんの提供にかゝる「瀕
死の白鳥」という告白文をもとに責繪
画家としての新人、都築峯子女史が世
に問う作品として物された傑作に久
方ぶりに野外の責め写真を掲げて立つ
辻村隆氏、本誌がその真価を發揮して
従来、或る事情のためやむを得ず伏せ
ていた持札をこゝに全面的に披露する
ことになった。以上の外、本文挿繪及
びカットについても従来の型を破つた
斬新奇抜なやり方を試み、こゝに一年
有余樹て来つたスタイルに併せて清新
の氣を強力に注入、以て読者諸氏の絶
大なる御期待にそう事になった。

その頃からシゲゲとたか子の素足
をよく見、よく弄るようになり始めて
今迄の誰にも脚線美でなく足そのもの
の美しさ即ち足首より先の甲、裏、踵
指の美しさを見出したボクの喜びは想
像に余りあるものである。

膝の上にも平気で乗つて来てピンと
爪先を上へあげて仰向いて頬を擦り付
けて来てギョロリと黒く大きい眸でボ
クを射すくめて来る恐ろしいたか子で
ある。勿論昨日今日では既に第一秘
書でボクの側に付切りである。縛つた
手の指は無感覚に手の平を伸ばし十指
をも蝶々の如く直線にしたまゝ、一言
もなく片エキボを立て、振り向いてニ
ツツと微笑をたゝえてボクを目を射抜
くだけである。他の女ならトタン物足
らぬ――と感ずるボクがたか子に限り
楽しめるのであるから不思議である。

△……………△

今日は土曜である。二、三日の間梅
雨の様に降り続いた雨もスツカリ晴れ
上っている。
午後の休みを待遠しく、チエツクの

フレアスカートも華やかに、刺繍入の
ブロードカツターのブラウス至極真面
目風情よろしく助手台に乗せたか子を
片手で抱きかえるようにしてM公園觀
光ホテルへ一直線、山中の別館へ！
このホテルは自分で車を持つてい
るものでない面白くない程の広大さで
ある。自分の別荘と云う感満々である
さて所謂「龍宮風呂」ボクは単なるた
か子の刺玉子の利用品のみ、今迄相当
拒んだヌードも今日は気抜け程、アツ
サリボクの浸つてゐる湯の中に小走り
ですべり込んで来て

「フン、とうとう一緒に入った、フ
ン……」
と例の通りワザと唇を遠くして頬を
擦りつけて来るナバロキツス、両手首
掴んで背中に捻じ抱きするとウンと胸
を反らして伸び上つてじらす。
成程、初の刺玉子でも顔色一つ変え
ず、今頃になつて頬の目近い処をホン
ノリと紅潮さして来る意味もわかつて
来る――

他の女達のようなこうした初の入浴
の場合、情春の情そのものに最後のも

のをかくれて脱ぎ、柱とか窓ぎわとか
に身を擦りつけて堪らぬ嬌羞の風情は
ない。さしもの墮子も一本の柱から離
れ得ぬ風情はボクの胸を心からうずか
せたものだつたが……(この状態はス
トリッパーがよく使う手で諸氏は察し
られると思ふ)と云つてこのたか子が
男を知り盡したとはケイ眼のボクにも
感じられないので、目下家庭的環境か
？生活環境からか？意地とハリの娘が
降服した感激かと甘く考えたり、然し
処女の真紅の羞恥美を見られぬ事は、
その意地とハりは初恋の破算のためか
と考究中である。

さて「たか子はやはり縄をかけんと
間に合わせなす」
結局本編は出来ないが、ボクの手拭
で腰纏、たか子の手拭で両足首を縛つ
てモザイクタイルの上へ転がして一息
入れる事にした。

初めてこの宣伝風呂を観察したもの
、華美な丈で情緒に乏しくてボクには
不向き、ボクの所謂「責めに適した風
呂」と云えば関東関西を通じてスイブ
ン廻つて見たが、やはり大阪近郊では

T・Dホテルの別館をナンバーワンの
最たるもの(これは後章でくわしく諸
氏に述べる)同じT・S温泉の家族風
呂の二つに止どめをさす!!

何々旅館と云つた観光旅館は豪華さ
と仲居、風呂番の出頭で、性的女責め
の陶酔には全く不向きである。まして
やボクの如く穢い事の嫌な人間には風
呂のないバンガローや、貸室オンリー
は總スカンである。そのくせ真面の山
中の谷間で小寒い晩秋の散漫たる落葉
の上、全裸で高小手、両足首の女を
仰向け、俯向に転がして虹の様な陽差
しの下に性的責めの醍醐味をしたもの
は秘書の松本を初め、正子、照子等や
はり相当の数になる。

他に京都北白川の山中の料理旅館も
泊り掛の場合は満点、関東では伊豆伊
東、YOSホテル(熱海は駄目)江の
島に一館、さて――

奇を好んで来たこのホテル、折角の
たか子の開花も前述の氣分に添わぬた
めかケンと盛り上つて来ぬ感興に細目
(風呂の場合は常に細い麻縄を用意す
るのであるが今日はたか子の場合責め

よりもその味覚がボクの先決意欲と感
じたのは辱かし乍ら事実である。

たか子は相変らず口もきかずギョロ
リと眸を輝やかしたまゝ湯舟の中で、
腰掛けてジロジロと楽しい観覧に余念
のないボクを或は薄笑いのエクボをた
へえつゝ

「とうとう……」

あとを云わないのがたか子の特異性
を殺し文句に代る總てを語るが如き目
の動き、ボクは湯舟の方へ先ずたか子
の足を掴んで来る。

大体日中は汚れ易いたか子の肌(女
の肌も汚れ易いもの、汚れ難い肌があ
るこれは色の白さに関わらず)特に足
首のあたり、踵、まして裏、その總べ
てが既に水々しく光っているのが湯場
痴戯の特長。

その足をシゲくと見てボクの観察
眼はやはり間違えなかつた。珍らしい美
しさだ、金般的に美しさのない小指ま
で、拇指の肉付と反り具合と五指の並
び方で踵の円味、足首のくるぶしの
骨の出張り具合とその大きさ足首の肉
のしわりとそのボクの手に対した握

り具合と觸覚等々、食堂の照子に似た
所もある。そう、後横向けに捻らして
腓脛の色と肌の肉付と曲線と味、ボク
の脚への溺愛の条件はこの五味を必要
とする、そして腓エクボ。

「ウーン」

と思わずボクに感嘆の声を発した
「たか子いい足しとるチアア」

ボクの云つて通りだ。足首の手拭
の縄目を握み上げて一面に煩ずりす
る。足の五指の間へ指をすべり込ませ
て撫で廻す、たか子 瞬間的に「ア
ッ!アッ!」と大きな声が出るもの
だ。

(未完)

三条春彦・画

◎時代物責絵巻◎

八月号に予告しました通り七月中旬
完成の予定で進行中のところ、春彦画
伯より八枚中の二枚に一部不満の点が
あるため書き直したいとの申出があり
ました為、出来るだけ良心的なものを
作り上げるといふ意志から多少の遅延
は犠牲にして雄渾なる筆致と華麗な極
彩色の責繪の完成を計ることに致しま

演劇の責め場面に就いて

響 龍 太 郎

私は若い時、新聞記者として演劇方
面を担当しているうち、いつとはなし
に興味を持ち始めて師匠なしの独立
独歩というやり方で、すつと劇団の座
長としてやつてきて居りますが、利益
とか利潤とかを度外視して、この道は
この道で又面白味があるものです。私
は座長としての役目の外に、脚本も書
いたりしますので、地方廻りの忙しい
さ中でも雑誌だけはよく見えています。

北九州の某市を打つてるとき、は
からずも奇譚クラブを店頭でみつくて
以来すつと愛読し、何冊も買入れて座
員にも読ましていた位です。

渾火なんかは、我々の手で上演して
みたい意欲にかられる小説です。私は
よく、座席の中へもぐり込んで、芝居
のどんな場面がうけるかということ
を研究するのですが、或る時のこと、や
くざ物でしたが、苦味走つたい、男の
旅人に可憐な娘がなぶり殺しにされる
場面があつたのですが、そのクライマ
ックスの時、十七、八の工場勤めらし
い三人の娘がほつと溜息をついて、
「いゝわねえ、あたかもあんなきれいな
男に殺されてみたいわ」と言い合つ
ているのを聞いた事があります。それ
で、はつと膝を叩いて思い当ることが
あり、その小屋で、美しい娘が虐めら
れる芝居をやつたところが大変うけた
ことがあります。

今迄多くのいけにえを手掛けてきた
が白人種は初めて経験するMだつた
娘は泣声になつて哀願した。そして
それが無効だとわかると、叫び声を挙
げて救いを求めた。絞るようなソプラ
ノが地下室の壁にガンガン響き渡つ
た。

然し、その何れもすべて無駄だつた
冷酷無情なMの眼には、それらは却つ
て嗜虐的な興味を唆る材料でしかなか
つた。しかも、この地下室の地獄部屋
で何が行われようと、地上に知れよう
筈はなかつた。
又例え、隣室の善良な椅子職人が、



ツトもそして異様な責め道具の数々ま
でが……あの闘牛場の観衆の様に、血
を待つ興奮の歓声をあげていた……。

Mは更にじりじりと迫つた。娘は恐
怖の悲鳴を洩してじりじりと下つてゆ
く。しかし背後は真赤なカーテンを下
げた壁である。

彼女は叫んだ。——必死に何か哀願
するように口走つた。椅子職人にはそ
の言葉の意味はわからなかつた。Mも
英語は苦手だつた。だから何時ものよ
うに得意とする言葉の上での遊びを愉
しむわけにはゆかなかつた。

忽ち直接行動に移つた。

Mは一跳躍して娘の肩先を掴んだ。
彼女はその手を振り払つてそのはずみ
に足を踏みすべらして横に倒れた。金
髪がふさふさとゆらめき、白いスーツ
が乱れる。Mは、獣のような荒い息を
吐くと再び掴み掛つた。

倒れた娘は左手を板の間について右
手でMの魔の手を防ごうとするが、M
はその右手をぐつと握つて逆に捻じ上
げ、スーツの裾に左手を掛けた。羞恥

が娘の抵抗をやわらげた。

椅子職人は息をはずませてこの光景
をじつと眺めていた。

いつの間にか手にしたのか、Mは皮の
鞭を振り上げていた。その鞭がピシッ
という大きな腹の底まで響くような音
を立て、板敷の上で鳴つた。娘は思わ
ずひるんだ。

瞬間!

Mは娘のふところへ跳び込んでいた
そして抱え込むようにして椅子の上に
押し付けた。驚いて立ち上ろうとする
娘の右手が左手が忽ち金属性のくもの
爪に挟まれる。手錠のようにパイプの
尖端の金具が腕の肉にくい込んだ。

娘は腕をそらし、指を曲げて全身を
弓のようにそらした。しかしそれは空
しい抵抗であつた。今度は足が必死に
なつてバタバタと暴れ出した。白い小
さな靴が二つとも足を離れて、部屋の
中央にゴーンと無気味な音を立て、落
ちた。

Mは顎や胸をストッキングを穿いた
足で蹴られながら悠々と落ちて着きを払
つて、両足首を椅子の觸手に固定して

しまった。
——万事休す——
これで完全に白人の娘の両手両足の
自由は奪われてしまったのだ。もう泣
こうが喚こうが、この椅子の実験台と
しての悲しい運命が待っているばかり
である。

——椅子職人は思はずブルブルと震
えた。——

完全に自由を奪つてしまったMは、
満足そうに一息入れた。そしてこれか
らの奇抜な罪の椅子の実験に供せら
れる異国娘のすばらしい肢態を、ゆつ
くり舐め廻すように眺めるのだつた。

「罪の椅子」 「フロントの虜」 (五)

飛田良二

ちようど、その頃……すつぽりと雨除けを掛けて、人目を忍ぶようにした異様な金属性の椅子を、後部の荷台に……そして、彼……椅子職人を助手席に乗せて……中型のトラックは国道を一路、Mの別荘へ向つていた。

Mは、とうとう迎えに来ず、替りに使いの者と稱して気味の悪い「三ッ口」の男がMからの伝言を持つて椅子を受取りに来たのである。……気の弱い善良者の椅子職人は心に幾ら煩悶を重ねても、事の成り行きに任かせざるより方法がなかった。すると踏み込んだ。泥んこ道へ何か未知の恐ろしい魅力に引ずられて行く自分自身を、どうする事も出来なかつたのである。

「三ッ口」の気味の悪い男の運転するトラックはかなり長い間、その国道を走つた。しかしその間彼は一言も「三ッ口」の男に話し掛ける勇氣がなかつた。

つた。「三ッ口」の男も、ついに何もしやべらない。……そして陽も大分西に傾きかけた頃車はMの別荘に着いた。地理に暗い椅子職人は、海に近いこの変に静かな土地が何処であるかも見当が付きなかつた……。

案内された処は——先刻まで今日の犠牲者——金髪の娘の眠られていた薄暗い地下の小部屋であつた。彼は驚いて来る不安と期待に早や心臓が早鐘のようになつて居た。……隣室はかなり大きな板敷きの部屋になつていて、小部屋の壁の小さな穴から部屋の大部分を見渡す事が出来た。ガラスの水槽はもう見えなかつたが、かなり上等の調度品と、彼には想像もつかない異様な道具類が左手に並んでいた。右手の方には何の為に厚いカーテンを壁と、天井に張つた所に彼が作つた椅子がでんと据えられていた。

Mは上機嫌に彼を玄関に迎えたのだ。そして早速「三ッ口」の男と三人掛りで、例のエレベーターの様な秘密の通路から椅子を運び込んだのである。

「三ッ口」の男はすぐ上にあがつていった。彼とMは一通り椅子を調べて見た椅子は忠実に設計通りに動いた。「約束だ」

と云つて、Mは彼をこの小部屋に導くと、急いで地下室から出て行つたのである。

あれから何分程過ぎたであらうか？

……薄暗いこの小部屋には彼は他の通路を見つめる事は出来なかつた。今入つて来た扉もどうした事か、中からはビクとも動かないのである。彼は完全に地下室の一室に閉じ込められているのだつた。

隣室には、ほのかな光の中に彼の作つた椅子が静かに獲物を待つて居る。彼は一層不安になつて来た。彼にはこの別荘の何もかもが恐ろしいばかりであつた。人の気のない隣室……、無気味に獲物を待つ椅子まで……今の彼には巨大な毒ぐもる姿に見えて来た……。

彼は又々深い後悔の念に襲われた。……と突然、隣室の薄赤い照明が青色に変つた。そして一段と明るくなつた時正面の出入口の扉が開かれ酒気を帯びて真赤な顔のMが異様な模様様のガウンをまとつて現れた。そして椅子職人のひそんでいる壁の小穴へ恐ろしい笑いを見せたのである。椅子職人は冷水をあびせられたようにブルツと震えた。と又、扉が開いてバツとあたりが明るくなるように金色の波がゆらめくと扉は急速に閉つた。

椅子職人は息をのんだ……。見事な金髪だつた。碧い瞳が恐怖におののきながら部屋を見廻した。そして手まねをするMの姿に娘は本能的に全身を震わせ、じりじりと後ずさりしてゆくのだった。Mはえものを前にした猫のように舌なめずりすると、ジワジワと近寄つて行つた……。

椅子職人は初めて見た……まるで外国映画の一駒のような、すばらしいシンであった。それでいて何故かその情景はあのスペインの惨忍な闘牛の開幕に似ていた。部屋の中のソファも彼

うちには十人ばかりの女優がいます。この間奇譚クラブを見せて「お前達縛られるのは好きか嫌いか」と尋ねてみたのです、最初の中は皆恥しがつ

てもじくして返事をしなかつたのですが、問い詰めてみると、その中で七人までは縛られてみたいと返事したのには驚きました。(文責記者)

或るサティストの空想より

「肉」

土中剛水・画



豚肉屋でなければ物置小屋でもよい死んだ犬や猫等と一緒に吊されると尚更効果的、吊された本人は自分の肉を食用に供されるという錯覚を起す。獣肉はなるべく体に近づける方がよい。羽村京子さんなど実験してみたら如何ですか、自分が腹を割れて吊され豚肉が牛肉になつた感じがします。且一時間以内……。

眞晝の幻想

眞曾生

「私の日々は誰れにも知られず」

私の夢は一日の、ひととき真昼の虹の様に開く。私はその虹の中で、暗くゆら／＼と歓喜に、のたうちながら無限の生命を味い、むさぼりくつて生きている。

何と言う柔らかな半円の宇宙であらうか。それは真昼に咲いた南海のクラゲである。

私は女の下半身に埋まつて生きるのだ。

女の臀部は私の神秘的故郷である。私の夢も快樂も、凡て女のふくらかな柔らかな、しかもすつしりと重い尻の味覚に依つて培われる。

勤めの帰りの女の下半身は、少し熱つぽく、むつちりと脂ぎつて居る。

私は都会の漂流物の様な小ぼけな家の二階でねころんだまゝ女を待ちうける。私の目はギラ／＼と光り胸の底は異常なうなりを上げ口を大きく開いて天の恵みを受ける。

女はスカートをまくりパンティを下げる。その真昼のまぶしい半円。むつとする程たくましい森が私の目に触れてくる。太古の匂が溢れ流れてくる。未開の原始林だ。

私の舌は支那の宦官のそれのように発達している。そして私の舌は私の全身を代表している。何と云う味覚。熱帯の朝明の様に爽やかに又々々れの樹液のようにねばつくそしてドリァンの醗酵の様に深い。

舌を伝つて咽喉に流れる今日の新しい糧は、無限の生命の源泉となつて私の体内に沈んで行く。時にはそれらは私の口に溢れ鼻腔をふさぐために私は時折、呼吸を阻害され、気が殆んど遠くなる。

私は両手で捧げ持つ二つの半円を！何と云う、すばらしい味覚、あゝ、その夢の様な開花よ。その香りは前者と異り、やや刺戟が強クツンと私の神経に響く。

やがて私は満足し、なつかしい我がふるさとである半円と別れるのである。(No. 1511)

私の告白

田村 鈴二

私は広島県K市で生れ、学校卒業後は県内の小学校に奉職していましたが私の体には生れつき人に言えない秘密があつたのです。

皆様お聞きになった事があるでしょうか、「ふたなり」という言葉を。不完全ながら男女両性器を持つている。そう、あれです。

親はそれと気付かず男性として出生届をしたのですが、私自身も小学校三・四年迄はそれと気付かず銭湯にも水泳にも友達と一緒に行っていました。その頃から他の子供と違っていることが判りました。それ以来水泳にも行かず銭湯にも人の少い時刻に行くようになったのです。処が中学校の一年生の時、或る友達にいたずらされて私の秘密が知れてしまいました。幸いその友達に秘密を守ってくれたので知つて居るのはその二人の友達以外にはいませんでした。しかしそれからは毎日私の

体を弄びました。そのうちいつかマゾヒズムな性質になり、自分から弄ばれることを求めるようになり遂には露出症になつて友達大勢と山へ行った時など平気で裸になつていました。けれども、その後学校へ奉職するようになり教壇に立つと不思議にそんな気持はなくなつてしまいます。二重人格とでもいうのでしょうか、教員としての前立つと厳肅な気持になるのです。

「世間は広いようで狭い」と申します。が全くその通りで転勤する先々の学校に私の学友の子弟が大抵三人います。その子供達が私の秘密を知っているのではないかしら。同僚の先生に告げやしないかといつもビク／＼して居ました。「田村先生がひげをのばしたのを見た事がない」「暑い時でも絶対に上着を脱ぎない」「あんなのが本当の紳士だ」等と同僚の話合っているのを耳にして「ハッ」とする事もありました。皮肉を言っているのではないかしらとひがんで考える事もありました。年をとるにしたがつて上半身は次第に女性化し、肩の線はさがつてなで肩にな

り指先も細くなつて、それにもまして心配したのは胸の隆起でした。それを隠す為にもいつも晒木綿を着付けていました。そんな訳で暑い夏でも上着をとる事はありませんでした。上半身と反対に下半身は男性化して足も毛深く履物の文数も普通の男並みでした。だから臨海学校の時も病氣と稱して子供と泳ぐような事はせず、ズボンをまくり上げて浅い所で遊ぶ程度でした。

さて、話は元に戻りますが、私の学友の子弟がいるという事で神経がいらい／＼していた私は終戦後、思い切つて県外のしかも内海の孤島、直島へ転任して来ました。もう私の過去を知つて居る人には出あわないのだと思つたとホツとしました。

あれからもう八年。私の過去を知つて居る者はないのです。私も努めて過去を忘れようとしていました。処が先日書店で貴誌を買い求め、次々目を通していく間に、忘れかけていた私のマゾヒズムが蘇つて来るのをどうする事も出来ませんでした。過ぎし日を思い出して繰り返しく

読ませて頂きました。あゝもう一度誰かに弄られてみたい、責められてみたいでもこの島の中では教育者という職を捨てない限り出来ない事なのだ。と考えると胸の内はやるせない気持で一杯です。編集部の先生、どうか私のこの気持ちを察して下さい、女性のサジストを一人御紹介下さいませんか。どうか。夏休みになつたら是非一度お訪ねし、素晴らしい作品を書きあげたいと思つて居ます。又そちらで何か行事のある時は是非参加させて頂きたい。重ねてお願い申し上げます。

◎女を縛つた経験 を語る座談会

◎出席希望者を募る

司会 辻村 隆

◎資格◎

本誌特別会員に限る。但し女体緊縛に興味を有し、女を縛つた経験語るに足る材料の持ち合わせある人。数名、会費不要、十月号に発表予定。開催日は七月下旬、希望者は辻村隆宛御申込を乞う。

なりました。そして新婚の夢さめやらぬ或る日の事でした。それは会社の秋の運動会が催された日の夜のことです。私はその夜、はからずも津矢子の従兄という男から津矢子の素行上の事について寝耳に水の恐ろしい事実を聞いたのです。

女を責めるということに全く興味のなかつた私が、憑かれた様に女体を責め立てる男になつたのはその夜からでした。どうか私の告白を聞いて下さい。若し皆さん方の中に私と同じ境遇になられた方があつたとしたらきつと私と同じ気持になられることだろうと思ひます。

順風に帆を挙げた私の半生はここに於いて急転直下、不幸のドン底に落ち込んでしまつたのです。

しかし、それは私の精神生活の面であつて他人が表面から見れば、相変らず私は幸福なしかも幸運に恵まれた男に見えたかも知れません。

琵琶湖畔につき出た湖上の料亭の事です。私は別室にとつてある自分の部屋へ引き上げようとした時です。

「峯村さん！」

いやにねばつこい若い男の声がしました。いつも社長さんとか専務さんとか呼ばれていると自分の本名を呼ばれるという事は何かはツとするものです。私はその廊下の曲り角から顔を出した男をじつと見つめました。時によつては四十近く見えたり、或は時によつては三十前に見えたりする津矢子の従兄だという男なのです。結婚式の披露宴にこの男が来ていたのを私は初めて思い出しました。私の本名を彼が呼んだ事にふつと嫌な感じをしました。少くとも私の部下である男なのですから。ひよつとしたら、金の無心でもするのではなにかと、私は別室にある自分の控え間へ彼を伴いました。仲居を遠ざけて私は彼と真向いました。私は机の上のビールを一杯ぐつとあけて、彼の秘密の話というのを聞こうとしました。彼は既に相当酔つて居るらしく、とろんとした眼を据えて

「峯村さん、女という者はわからんものですね」
と私の顔を見上げるのでした。

「そりや、何の話だね」
私はポケットから煙草をとり出してマッチの火をつけました。(未完)

補 波 仁 抄 遺 抄



(十八頁下段二〇行目) 稲妻に似たかゝつとする快い戦慄が幾度もく／＼お八重の身内を駆け巡つた(三五頁中段十行目) 肌を開かせて(七五頁上段二〇行目) ズロースの(二二行目) 太股の間をさするうとして太股の間に手を入れた(同下段三行目) ズロース(同五行目) 花びらを手でさ(同六行目) 舐める。舌を用い(同十行目) 後向きに跨つて(同十一行目) 少年のを取り出していじり。口を寄せ。馬乗り。倒し(七六頁上段一行目) 跨つて(同二行目) 舌を使(同三行目) しおから(同五行目) 夫人の身体に壓され(同六行目) 尻を浮か、舐め易く。舐め(同

九行目) 身体の様子や(同十一行目) 挑む。合戦の最中(同十三行目) 女の花びら(九八頁十行目) 乳のあた。まさぐ(同十一行目) 太い指は下腹を股間にふれました(九九頁三行目) 下腹に(一二頁八行目) いとみ(一〇三頁三五行目) 局部(一〇四頁七行目) 手で(一二八頁下段三行目) お腕を伏せた(同四行目) 乳房、ギョツと握つ(一六〇頁下段一行目) 顔を掩(同五行目) 肉体の一点を(同十四行目) エレクトし(同四行目) 行つていま(同五行目) 情熱がたかぶつて(二六一頁上段一行目) 機械的、動き(同六行目) 跨がつ(同二行目) な液体が溢れ(同下段三行目) 痴態に昂奮、凄、狂(同六行目) 歓喜の声をあげ(同下段八行目) 息使い、鳴つてい(九行目) 荒々(十三行目) 羞恥と(十五行目) 人に見(同十六行目) 痴態を演じ(同十九行目) 愛撫する(二一行目) 歓喜の声(同二行目) の愛撫(同四行目) 奥合にして可愛が(二二頁上段一行目) 泣かせる(同五行目) 犯されて(以上)

或る富豪の告白

マゾヒスト誕生 (二)

峰村 佐吉

仮にも華族の席に列している津矢子母娘がなぜこの市へ来たかと申しますと、南方の某島で飛行機事故の為戦死したM氏が、戦前博物学で秀れていることからこの市の博物館長として招れていた為で私の父がその当時市長をしていた関係で戦災にあつた母娘を難室に住ませることにしたのでした。

その秋、津矢子の従兄だという男がノ連から復員して来ました。彼は一時彼女達と一しよに起居していましたがやがて私の支配下の会社で職を得て、その寮に移りました。

前にも申しました様に、私は津矢子を見た時から、自分の妻にすべき女だと思ひました。勿論私も今迄さんぐいんな女に接して来ましたが、妻にするとなると、やはり彼女の様に淑やかな教養ある女を選びたいのは当然でした。

深窓の麗人という言葉が一頃よくはやりましたが、一目見た時から私は彼女に「深窓の麗人」という名を冠せるのに最もふさわしい女性だと思ひ込む様になりました。

夕涼みの一時、母屋から彼女たちの住む難室に通じている泉水の橋の上で私は屋敷の激務からの疲れも忘れてよく彼女と逢いました。

その泉水の上の橋を渡つて暫く小道を辿ると庭が背後の山に続くあたりに一むねの亭があります。

もうその頃は、公然と津矢子は私の許婚として皆から許された仲でした。私は、彼女をその亭に伴つて、いろいろと私の過去の経緯を話しました。

それは主として大陸や南方の各地を転戦していた頃の思い出話等でしたが：彼女が、只淑やかに或る時は驚いたような眼をみはつたり或る時は上品に含み笑ひするばかりでした。

私はこの清純で無垢の彼女がいとしく、唇は勿論、手を握ることさえしませんでした。いや、そんなことをしなくても只彼女と語つていただけで楽しく嬉しかつたのです。海千山千の私としては実際不思議なことでした。豪族の子孫として生まれた自分と、堂上華族の血を受け伝えた津矢子、そればかりではありません。彼女の自ら具わる気品さが私に近寄り難い思いを起させたのかも知れません。

夕鷺の中に、団扇を動かして蚊を追う彼女の素足が白く浮び上つています。長身のなよなよとした姿態ながら、ぐつと引き緊つた胸のあたりはしなやかで強靱さを思わせます。浴衣の全体から何にかいいきぬふくよかな香気が漂う様で、私は思はず彼女を力一杯抱きしめたい衝動にかられました。然し、そこにみはつてはいるつづらな瞳を

発見すると、私はその香気にむせび乍らも只身体を近くすりよせるだけでどうすることも出来なくなりました。「蚊がいますネ、一寸歩いてみませんか」

と囁やくと彼女は軽くうなづきました。この様に彼女は私の云うことに決して逆うことはなかつたのです。こうして私は彼女との逢瀬を楽しみながらも、手一つ握ることもなく秋を迎えました。そしていよいよ彼女との結婚式が挙げられることになつたのです。市の旧家でしかも新築階級である峯村家の当主の結婚式でありますからその盛大ぶりは今更こゝに喋々と述べる必要はないと思ひます。

私があれほど、神聖視した彼女、深窓の麗人視した津矢子が私の正式の妻となつたのです。

新婚旅行は、北陸から山陰へかけて温泉めぐりをしました。その一週間という日の流れることの早いこと、まるで夢の様でした。そこで私達は半年もかかつて建られた見晴のいいちよつとしやれた和洋折衷の新居に住むことに

会友通信



奇ク編輯部の皆様、始めてお便り致します。私は此の良い「奇ク」を昨年A判になつて以来愛読して居ります。書店へ行つて「奇ク」を求める時よく品切れの時があります。(私は岐阜の名古屋で買います)その何れもが「奇ク」は最も早く売り切れますと云つて

いるのを聞くに嬉しくなります。誰れがそんなに早く買つて行くのだらう——と想像するのも楽しいことの一つです。

私の妻は、「痛いことは大嫌い」と言つていますが、「奇ク」は喜んで見ます。妻と私の生活については、いつかは非お知らせしたいと思つています。私の悦楽について妻は良く理解してはいますがそれでも私を虐待することは好まない様です。私は自虐症と言われるかも知れませんが、自分で麻縄などで自分の太股を縛ります。太股は縛つたま

ゝ外出してもズボン或いは着物を着ているからわかりません。

時によると平日位も縛つたまゝで外出することもあります。ですから今では両股に縄のあとがついてしまつています。

先日とも旅行先で風呂に入つてると大勢の大学生達が入つて来たのでタオルで隠すのに一と苦勞しました。

若し、豊満な女の太股をきつく縛つた所を指して頂けたらと思つています。股の、つけ根の二、三寸迄の所をきつく縛つたのが本当に良いと思ひます。それは、私が自分で縛つてみて特に強く感じましたから……

(K・S、NO・1836)

小坂多美枝様

私は、貴女の熱烈なるファンであります。貴女の発表される「女囚私刑体験記」には、いつも壓倒されてしまします。私は、サディストとしては、病

膏肓に入つた方で、少し位の事では驚かないのですが、生々しい実感の横溢する、貴女の手記には全く兎を脱ぎます。一般社会の常識や秩序が通用しない特殊な社会だけに、思い切つた残忍な私刑が行われるのでしょうか。しかもそれが、肉体的苦痛のみならず、精神的苦痛をも狙つている点、サディズムの真髄を發揮したものと云えるでしょう。同性の手によつて、散々に弄ばれ凌辱されて、絶望と屈辱の泥沼の中にのたうち廻る女囚の姿は、私達サディストにとつて、たまらない魅力です。このような体験を持ち得た貴女を、羨しく思う程です。これからドシドシ発表して下さい。(NO・一五七九)

羽村京子さんへ

「奇ク」2月号に寄せられた「妖花」を読み、女主人公の明子にすっかり魅了されて居ります。もし明子のような女性と結婚していたなら、今日小生はどれ程幸福でいるでしょう。女性肛門女の膨満した腹と、消化器管等に妄想を抱きはじめてのは、性に眼覚める以前からだつたように思ひます。

或る夏、海辺の岩の上で海鼠を内臓を強烈な太陽の下にさらけ出すのを見てエレクトして困つた少年の頃の記憶があります自分の肛門や腸を「実験」したこともあり。といつても明子のような大胆で著想の素晴らしいものではありませんでした。戦前地方の高等学校に居りましたが、小生の肛門への郷愁は男色とはなりません。妄想的相手の相手は何時もぼつてりと肥えた肌の白い女体でした。

こゝ二、三年小生は若い女性の暖気に異状に強烈な興奮を覚えます。これは肛門からの排泄を見る機会のない環境にいる小生が必然的に求める可視的代用なのでしょう。「妖花」にたつた一行「ぐふつ……開いてげつぷを出した」と書いてあるのを見、我意を得た思いで狂喜しました。美しい女が腸に酒を一杯入れて切なげに「ぐふつ」と暖気を洩すとは何とすばらしい著想でしょう！

慾を云えばそこをもう少し詳述して頂きたかつた気がします。大腸に酒を入れると、何故暖気が出るかと云う医

欧米映画にあつた女の責め

X Y Z

無声映画時代には「女の責め」の場面があつた映画がかなりあつた。想い出をたどり乍ら記してみよう。

(米) フォックス映画「ダンテ地獄篇」は全巻の三分の一が地獄の責めの場面であつたが残念乍らそれらは全部が遠景で撮られ僅かに裸体らしき男女が鞭をうけて、うごめいている姿が小さく映じたに過ぎなかつた。しかも彼等は肌着を着て居たといわれ余り好評でなかつた。同じ地獄映画でも伊太利映画の「マチステの地獄征伐」はそんなごまかしはなかつたがこれ又それらしき場面は全部カットされて居て期待に副わなかつた。

伊太利映画で「メツサリナ」は印象が深かつた。リナデリグオロ伯爵夫人の扮するメツサリナは淫蕩の限りを尽くして居たが、たま／＼或る男が自分の意に従わぬのは彼の愛している奴隷娘が居る為だとしてその女を捕え、刑罰を加えるのであつた。―其処は暗

い牢獄の中で女は衣服の上半身を脱ぎ裸手を縛られ、後向きに吊られていて、脊中には既にいくつもの鞭跡が付いて居て、更に鞭打たれて身を揉む度に乳房のふくらみがうかがわれた。終ると典獄が入つて来て後から胸と腰に手をかけて抱き上げる処もあつた。又その女が胸を露わにして森の湖で水中数人の男に襲われ手とり足とり無理矢理に運び去られる場面もあつた。この女優の名は想い出せないが、前記マチステの地獄征伐の相手役として出演して居た。

(米) フラストナシヨナル社発売になるエミールヤニングス主演の「クオヴアズ」は伊太利で撮影されたと思われるが、そのクライマックスのシーン―牛の脊に白い薄衣をまとつた女が仰向けに縛り付けられて競技場に引出される。と怪力の男が現われて両手で牛の角を握り揉み合う場面、牛が暴れるので身体を縛つた縄がよじれて薄

はだけてゆき、永い乱斗の末牛が遂に倒された時には、既に女の乳房は両方共すつかり露出してしまつていた。この女に扮したリリアンホールデヴィスは、その後ハリウッドで自殺してしまつたのは気の毒であつた。

独逸映画で「戦く影」という無字幕

映画。筋は、昔或る城主の若い美貌の妻が、毎夜三人の若人を城に招き恋に戯れて居たが、ある晩老人が現われ不思議な術によつて夢幻の世界に引き入れられる―その若人達は益々恋の深みに陥りお互いに敵同志となり争う。城主は遂に妻を椅子に縛り付け、剣を三人に渡して胸を刺せと命じて刺殺してしまふ。然も城主も怒から落ちて死ぬというのであつた。この妻に扮したル・トワイヤトは白い輕羅をまとい柔い肉体の線を現わし殊に椅子に縛り付けられて刺殺される処は細細が豊かな胸に喰ひ入つて緊縛の美を遺憾なく表現して居た。

(米) パラマウント映画「四つの顔の女」は、探偵物でベターカムブソンのヒロインが悪人に捕えられ椅子に縛ら

れて柔術の逆手で責められるその大写真、両眼から涙が流れ口を半ば開いて苦しい息。同じく別室に捕えられて居たりチャードデックスのヒーローが、その悲鳴を聞くに堪えず自白してしまふというのであつた。

(米) ユニバーサル映画「ノートルダムのせむし男」は再度映画化されたが前作品ロンチャニー主演の方が印象に残っている。パツシールスミラーの扮する娘が、足枷によつて責められる処は可憐であつた。

戦後の映画では、既に指摘されて居たが、仏伊協同作品「フアビオラ」がある。この中のキリスト教徒虐殺のいくつかのシーン―、戦車に繋がれて引ずられてゆく処。裸体の女が十字架にかけられる処。火あぶりの場面。ライオンに喰殺される処。等々は総て遠景で撮られしかも短いワンカットであつたが、男女が別々の十字架にかけられ、体と体をぶつけ合わされた刑の時は近景で、女の破れた肌着の間から黒い乳房がゆれたのは無惨であつた。

学的疑問が残るのです。それはともかくこの文を書いた人が若い女性だと思ふとぞく／＼と嬉しいのです。

今年の三月、バスの中でのことです。小生の前の吊り革につかまつた若いみずみずしい娘が突然「ぐぶつ」と嘔気をするのを偶然に見たのです。小生は ejaculate しそうになる程興奮をしました。小生に云わせれば嘔気は消化の可視的現象で、若い女の膨満した胃とそれに続くぐねぐねした腸がほうふつと見えて来るのです。嘔気がいやらしい印象を与えないためには、若い女であること(中年以上の女、男性の場合は却つて嫌悪を覚えます)喉元が白く滑らかであること、唇が美しいことなどが絶対に必要な条件です。

京子さん、妖花」の明子はあなただと想像されるのですが、果してあなたは嘔気に関心を持つて居られるでしょうか。例えばあなたは嘔気を娯むために飲みもの喰べものを選択なさいますか。香高いコーヒ、ウイスキー上等和酒、ペッパーマインツの後の嘔気は嬉しいと思うのですが、もしあなたは

がすばらしい著想の胃の「実験」や嘔気の試みをなさつて居るなら、是非とも誌上で詳しくお知らせ下さい(N)

大川由紀子様

奇譚クラブ四月号で貴女の御投稿拝見致しました。何よりも心が惹かれ左に思う儘に書き記します。

小生現在二十九才の会社員で毎日平凡な生活を送っている一市民ですが、貴女の仰言することに全く同感です。女の人の、殊に美しい女の最も美しい瞬間、之は確かに生と死の関頭それも絶対の力の前に横たわり観念しきつた時ではないかと、最も美しいと云うことに疑義はあつても普通の美と異つた消える灯の最後のきらめきがあると信じます。

刑台上にある美女の観念しきつたマゾへの境地と自己を客観視したサドへの満足とが此の美しさを齎らすのではないかと思ひます。

私が此の様な陶酔感に導かれたのは小学校の終り頃に読んだ江戸川乱歩ものからです。その小説には必らず美しい女に対する、云いかれば美しく生

れたことに対し加えられる虐殺と凌辱とが飽くまで美的に表現されていました。美しく生れた者の悲劇と思うは悲愴的観方で最も淫虐的に殺される美しき女の喜びが、其処に脈打っているのでは無いかと――。

私も良く思つたことがあります。若し美しい女に生れていたらばこの様な喜びに浸ることが出来るのに……只現在では自己を小説中の人物に置きかえることにより気持ちを満している訳です。そこで私は貴女の御投稿をみてこう思うのです。貴女の処刑執行が私により行われるならばと、貴女の文中に

は執行者を女と書いてありましたが飽迄之は対照的に即ち美と醜、男と女と云う様に表わされる方が受ける感じは強いと思ひます。然し滋賀県の御住居では意の儘にもなりません(ごん)なことが貴女と実現出来たらどんなに楽しいことだろうと考えて居ります。

大分悪魔的なことを記しましたが私が最も探美的なるが故に斯く悩むのではないかと思ひます。若し許されるならば貴女の御仕置の執行者として且又貴女の美しい死体の介添人として写真がとられるものなら夢想して居ります。(布井生)

